

# かほだより

## まだ間に合う！サシバエ対策！！

9月に入り、サシバエ対策に関する問い合わせが多くなってきました。外気温が下がり、牛舎内にサシバエが入り込む季節。血液を介して感染する可能性がある牛白血病等の感染防止や牛のストレス軽減のために、積極的にサシバエ対策を行いましょう。

### 1 サシバエの発生源

○有機物(糞や敷料)があり、水分が多く牛に踏まれにくい場所

- ・畜舎の柱周辺や隅などの除糞しにくい所
- ・カーフハッチ周辺や飼槽、水槽の周辺
- ・堆肥舎

などが主な発生源となります。このような場所を掘って、実際に幼虫がいるかを確認してみましょう。



### 2 年間を通じたサシバエ対策

サシバエは春から発生し、涼しくなる秋ごろにもピークを迎えます。しかし、大量発生してから殺虫剤を空中噴霧しても効果はほとんどありません。対策のポイントは幼虫の段階で個体数を増やさないようにすることです。そのためには5月からの対策が重要となります。

- ・発生源になる糞便や食べ残しの徹底的な掃除
- ・発生源となりそうな場所へIGR剤(昆虫成長制御剤)や殺蛆剤を散布

○薬剤の年間散布スケジュール例

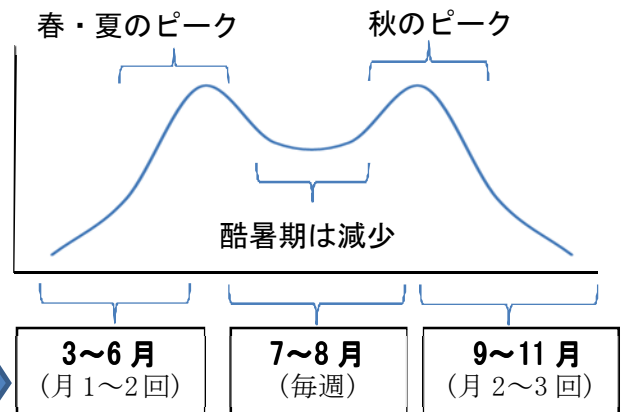
使用薬剤(例)

ピリプロキシフェン

※薬剤使用量は20g/m<sup>2</sup>

右図の散布プログラムを参考にしてください

サシバエ(成虫)の数



薬剤散布スケジュール

### 3 まだ間に合うサシバエ対策

- ①ハエ取り用粘着シートを牛舎と外部との境界部分に設置する。  
あるいは餌箱の前面にハエ取り用粘着シートを張り付ける。
- ②牛舎の出入り口や窓を防虫剤入りネット、または2ミリ以下のメッシュのネットで被覆する。
- ③電撃殺虫機を設置する場合は牛舎と外の境界や牛舎内の空気の淀む所の低い位置(サシバエは90~120cm位の所を飛んでいます)に設置する。
- ④イヤータッグ型の殺虫剤の装着
- ⑤発生源となりそうな場所へのIGR剤や殺蛆剤散布
- ⑥殺虫剤の散布
- ⑦畜舎周辺の草刈り、整理整頓



#### サシバエの特徴

- ・♂体長3.0~6.5mm、♀体長5.0~8.0mm
- ・吸血は夏では朝夕、春と秋は昼に行うことが多い
- ・吸血時以外は牛舎周辺の草むらや木陰で休息している